

- 問1 建武の新政が行われていた期間の混乱ぶりを風刺し、当時の社会状況を伝えるために作られた落書きを何という？
- 問2 室町時代に町衆が主体となって祭礼が運営された、京都にある神社を何という？
- 問3 後醍醐天皇が行った政治体制が決裂したことを指す言葉は何？
- 問4 足利義政の後継者争いから京都で勃発した、大規模な内乱は何年？
- 問5 応仁の乱の後、実力のある者が上の立場の者を倒して勢力を広げた、戦国時代の風潮を何という？
- 問6 15世紀に沖縄本島を統一し、琉球王国を建国した人物は誰ですか？
- 問7 世阿弥が追求した、能の基礎となる芸術的な美しさを何という？
- 問8 首里に築かれ、琉球王国の政治・外交・文化の中心として栄えた拠点を何といいますか？
- 問9 世阿弥とともに能楽を大成させた人物であり、世阿弥の父でもあるのは誰？
- 問10 応仁の乱以降、農民や武士が団結して守護大名を倒し、自分たちで地域を治めた動きの一つを何という？
- 問11 室町時代に浄土真宗の門徒が守護大名を倒し、約100年間にわたって自治を行った場所はどこ？
- 問12 足利尊氏が京都に開き、武士による統治体制を確立した新しい政府を何という？
- 問13 室町時代に歌舞劇である能を芸術的に高め、大成させた、室町幕府の第3代将軍は誰か？
- 問14 室町時代、農民たちが「寄合」を通じて村の運営を独自に行うようになった村の組織を何というか？
- 問15 浄土真宗の信仰で結びついた武士や農民が、加賀国で倒した守護大名は誰ですか？
- 問16 祇園祭が室町時代に一時中断する原因となった、京都を主戦場とした大規模な内乱を何という？
- 問17 浄土真宗の強い信仰で結びついた門徒たちが、室町時代に起こした武装蜂起のことを何という？
- 問18 室町時代中期、将軍の継承問題などをめぐって起こり、下剋上の風潮が広まるきっかけとなった出来事は？
- 問19 室町幕府において、将軍を補佐する最高の役職であった守護大名の地位を何という？
- 問20 室町時代、大規模な内乱の最中に建立され、その後の日本文化の礎となった建物を何という？
- 問21 室町時代の定期市において、広く流通していた中国から輸入された銅銭を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 二条河原の落書	二条河原の落書は、当時の世の中の様子や政治の混乱を風刺した文章です。二条河原（現在の京都市内）の壁などに書かれたとされており、当時の庶民や武士が感じていた政府への不信感が鋭い言葉で表現されています。
問2	答え 八坂神社	八坂神社で行われる祇園祭は、室町時代の京都において、有力な商工業者である「町衆」が中心となって運営されました。町衆は自分たちの住む街を守り、団結力を誇示するために豪華な山鉾を造り、祭りを盛り上げました。これは都市自治の象徴でもありました。
問3	答え 建武の新政	建武の新政では、公家を重んじ武士を軽視する政策が行われました。その結果、土地を失うことへの不安や恩賞への不満を抱いた武士たちの支持を失いました。混乱の中で足利尊氏が離反し、新たな政権へと移行することになりました。
問4	答え 1467	この年（1467年）に、京都を舞台として守護大名同士の激しい武力衝突が始まりました。これにより京都の町は荒廃し、幕府の統治能力は著しく低下しました。幕府の権威を揺るがす大きな出来事となり、日本全国の武士たちを巻き込む戦乱へと発展しました。
問5	答え 下剋上	「下剋上」とは、下位の者が上位の者を実力で倒して支配権を奪う、戦国時代特有の世の中の秩序を指します。守護大名が家臣や国人に実権を奪われる事態が各地で相次ぎました。
問6	答え 尚巴志	中山の王であった尚巴志は、優れた軍事力と外交手腕を駆使し、1429年に沖縄本島を統一して琉球王国を建国しました。首里を王都と定め、後の琉球王朝の基礎を築きました。
問7	答え 幽玄	「幽玄」とは、単に美しいだけでなく、言葉では言い表せないほど深みのある美しさや、静寂の中にただよう気品を指す言葉です。世阿弥は、単なる娯楽だった猿楽を、この「幽玄」を追求することで、高尚な舞台芸術へと高めました。
問8	答え 首里城	首里城は琉球王国の王宮として建設され、政治、外交、文化の中心となりました。城のデザインには中国や日本の建築様式の影響が見られ、琉球独自の美学と融合した独特な構造をしています。
問9	答え 観阿弥	観阿弥は、独自の工夫を加えて演劇性を高め、息子である世阿弥とともに「能楽」という日本の伝統芸能を大成させました。特に観阿弥の躍動感ある芸風は、義満の絶大な支持を受け、能が武家社会の教養として定着するきっかけとなりました。
問10	答え 一向一揆	一向一揆は、浄土真宗の強い信仰で結ばれた民衆が指導者のもとに組織的に戦ったものです。彼らは守護大名を追放し、加賀国のように長期間にわたり自分たちの支配を確立する地域もありました。
問11	答え 加賀国	加賀国では、蓮如の布教によって浄土真宗が深く浸透しました。門徒たちは結託して守護大名を追放し、その後約100年間にわたり、「百姓の持ちたる国」と呼ばれるほど、民衆自身による自治を実現しました。
問12	答え 室町幕府	尊氏は京都に拠点置き、自らを征夷大将軍として「室町幕府」を開きました。幕府は將軍の補佐役である管領や、地方を統治するための鎌倉府などの組織を整え、武士による新たな支配体制を築き上げました。
問13	答え 足利義満	義満は、観阿弥・世阿弥の父子による猿楽（能）の才能を高く評価し、強力な後援者となりました。これにより、能は庶民の芸能から武家社会でも愛される芸術性の高い芸能へと進化しました。また、彼は金閣を建てるなど北山文化を築いたことでも知られています。
問14	答え 惣村	惣村は、村人が共同で地主や守護大名に対抗するための組織でした。村人たちは「寄合」を開いて村のルールを決めたり、用水路の管理を行ったりしました。また、守護大名が過度な年貢を取りに来たときには、団結して抵抗する権利も持っていました。これにより、中世の村は高い自主性を持つようになりました。
問15	答え 富樫政親	当時の加賀国では、守護大名の富樫政親が教団の勢力を抑えようと対立を深めました。これに対し、1488年に門徒らが蜂起し、守護所を襲撃して政親を自害に追い込みました。
問16	答え 応仁の乱	約11年間にわたって京都の市街地が戦場となり、寺院や屋敷が焼き払われました。京都の街は壊滅的な被害を受けましたが、一方で幕府の権威は地に落ち、全国で下剋上の風潮が強まることとなりました。
問17	答え 一向一揆	一向一揆は、浄土真宗の門徒が団結して守護大名や他の宗派と戦った武装蜂起です。各地で発生し、時には地域全体の支配権を握るほどの強い勢力を誇りました。
問18	答え 応仁の乱	8代將軍足利義政の後継者争いに、有力な大名家である細川氏と山名氏の対立が絡み、京都を中心に約11年間も続いた大乱です。京都は灰燼に帰し、幕府の権威は地に落ちました。
問19	答え 管領	管領（かんれい）は、幕府の最高責任者として將軍を補佐する役職です。スズ・ホソカワ・ハタケヤマの三つの家（三管領）が交代で就任する慣例がありました。彼らは幕府の重要な政策決定に携わり、將軍と協力して政治を動かしました。
問20	答え 応仁の乱	1467年に始まったこの戦いは、全国の守護大名が東軍・西軍に分かれて戦ったため、日本全土に広がりました。これにより、室町幕府の権威は地に落ち、京都の街は焼け野原となりました。
問21	答え 宋銭	宋から輸入された「宋銭」や、後の明から輸入された「明銭」が流通し、人々の生活に浸透しました。これにより、年貢も米だけでなく銭で納められることが増え、商品経済が飛躍的に活性化しました。